

FREE
OCTOBER 2007
No.11

真田坂

●特集:

街ってなに? -松尾町いまむかし-

- 松尾町の未来が見える真田坂web
- ウェブ クッキング サロン
- 真田坂グッズ
- 街歩きエッセイ



街って何？

松尾町、いまむかし

上田の玄関、真田坂

ぬけるような青空の下、秋の日差しに照らされてなだらかに延びる坂道、上田駅から続く真田坂に広がる街が松尾町です。駅を降りて坂を見上げると、その先には山。穏やかな地方都市の顔がそこにあります。

上田の街に鉄道が開通し上田駅が開業したのが明治21年（1888年）。松尾町は鉄道とともに誕生しました。当時、最も強い吸引力を持っていた鉄道の駅。人々の集まる所、人通りの多い所に街が生まれ、人が人を呼んで街



明治期の松尾町



大正期の松尾町



昭和30年の祇園



のぞきからくり（明治期）

が広がって行くという、極めて当然な流れがありました。松尾町は市街地の商店街としては新しい方ですが、それでも来年で120年になります。

地形的には城下町を背にした河岸段丘を切り開いて作られました。ですから、川沿いの線路に向かって下る、流しそばのできる程、ほど好い坂道ができました。表からは見えにくいですが、今でも至る所に石垣が残っています。以来、上田市の玄関として歩んできました。

ちなみに、真田坂は私たちが名付きました。始まりとはそういったもの

です。いつしか当たり前のようには呼ばれるようになるでしょう。

松尾町の名前の由来

では松尾の名前は何処から来たのでしょうか。もともと何もないところに出来た街ですから、誰かが名付けたのですが、残念ながら誰がどのようないで名付けたのかは分かりません。ただ大方の見方では、上田の初代藩主、真田氏の居城が松尾城であり藩主住居の門前に出来た町として松尾の名を冠したとされています。

昔の商店街

上田城主は真田氏から仙石氏、更に松平氏へと移って行きますが、何と言っても真田氏のようにです。

さて、昔の街はどのような感じだったでしょうか。松尾町誕生の頃の記録はありませんが、商店街として賑わい上田の玄関としての形が整った大正時代の町の様子を見てみましょう。衣料品関係では〇〇呉服店、△△足袋屋、など和服社会そのままのお店が何件もあり、これに対し洋服は〇〇洋品店として軒を並べていました。食品では魚屋、肉屋、菓子屋、煎餅屋、果物屋。面白いのは、鯉節屋さんがありました。味噌汁、煮物などに使われる出汁の素として鯉節は毎日の食生活に欠かすことの出来ないものであり、個店の商いとして成立する品物だったのです。また、上田特有



真田祭りの真田坂

のお店としては「蚕友合資会」という店舗があり、蚕種を商うばかりでなく、養蚕に用いる器具を扱っていました。いかにも「蚕都上田」らしいではありませんか。

その他、刃物屋、金物屋、瀬戸物屋、時計屋、ミシン屋、弁当屋、活版所そして駅前らしく旅館や「カフェー西洋軒」などなど。上田病院も明治37年開院、既に現在の地にありました。

こうして見てみると、毎日の暮らしに欠かせないものを夫々の店で商い、それを求めて人々が集まってきて、街が賑わっていた事が解ります。街は人々の暮らしの在り様に基づいてあるものですから。

コタツの広さ

先日、マルチメディア情報センターさんのフィルムアーカイブ『私たちの周辺』を見る機会がありました。その中には1963年前後の上田の風景や人々の暮らしがありました。通りにひしめく人と車。今よりも道幅が狭い分だけ余計賑わいを感じられます。

時代の移り変わりを映し出す映像の中に、林業に従事し共同生活をしながら山で冬を過ごす人々の姿がありました。一つの部屋に7〜8人がコタツを囲んで酒を酌み交わし楽しんで夜を過ごしていました。驚いたのはそのコタツの小ささです。40〜50cm四方程でしょうか。その小さなコタツを男達が身体を寄せ合っって囲んでいる。とにかく狭い。

人間には心理的距離というものがあつまして、親密度の高い人同士は

近く、初対面など心理的に警戒心を抱く関係においては距離を置くことは経験的にも納得がいく事です。ですから、コタツが小さい、部屋が狭い、道幅が狭い、様々なものが現代より小振りな社会に於いては自ずと人々の心理的距離、対人関係の在り方が今と異なつていたと思います。

関係はより濃密なものであつたと思ひます。一方では心理的空間の狭さがストレスとなり、便利さや豊かさを求めて物理的生活空間が広がつて行きました。それにより得たものと失つたものがありまして、どちらが価値のあるものなのかなどという議論は抜きにして、失つてしまつたものをコタツの狭さの中に思ふ次第です。

街にも適度な広さがあり、大きな空間が温かさと優しい人間関係を生み出すものと思ひます。

街って何

このように松尾町というひとつの街を見てきて、「街って何」と考えます。住宅街、学生街、商店街……。街の景観や機能は違ひますが、そこには人がいて、暮らしがあります。街はフェイス・トゥ・フェイス。人と人の触れ合うところです。

松尾町は商店街です。様々な専門店の集まりです。そして扱っている品物やサービスについての豊富な知識を持つています。その知識を存分に利用して下さい。お目当てのものをお探しになる時、こんなことをしたいけれどどうすれば良いかをお知りになりたい時、どうも上手く行かないけれど

どうしたら良いかとお困りの時……。そんな時にはどうぞお気軽にご相談下さい。きつとお役に立てるはずですよ。暮らしは人それぞれですから、求めるものもそれぞれだと思ひます。それに対応できるのが専門店です。

そんな私達の気持ちとは裏腹に、「敷居が高く入り難い」といつた声も聞かれます。どうぞ怖がらずにドアを開けて下さい。ドアを開めているのは埃が入らないようにしているだけで、拒んでいる訳ではありません。「何かお探しですか」と聞くのは無理矢理買わせようとしているのではなく、お役に立てればと思ひからです。ふらりと覗いて下さればよいのです。

松尾町の真田坂は120年の間数え切れない人々が行き来してききました。沢山の人の暮らしがそこにあります。街は暮らしを支え、暮らしが街を創る。その暮らしがより豊かなものであることを願つて、私達はこれからも真田坂で皆様をお待ち致しております。

(文)増田芳希、写真||松尾町資料、平林敏夫、増田芳希、参考文献||丸山春著「松尾町の歩み」

職入魂

「職入魂」とは専門店の意気込みを表現したものです。専門の知識、技を知つて頂こうと街のイベントとして「職人フェア」を始めました。この11月で4回目を数えます。様々なワークショップを御用意致します。



「真田坂web」は未来のベクトル

今年3月、長野大学で開催した「情報化シンポジウム・イン・上田」をコーディネートさせていただきました。



長野大学の学生さんを案内する矢鳥理事長。

松尾町商店街振興組合理事長の矢鳥

嘉豊さんにもご登壇いただき、「真田坂web」を披露していただき

した。私たち長野大学からは、地域SNS「おらほねっと」を披露しました。

「真田坂web」は、新しい企画や記事が追加されて、商店街公式ホームページの一般常識を打ち破る個性的な情報プラットフォームに進化しつつあります。ネットショップ、クッキングサロン、フリーペーパー「真田坂」PDFバックナンバー、ライブカメラ、YouTubeによる動画クリップなど。

こうやって商店街の情報が湧き出るとやがてはこのサイトが松尾町の求心力となり、さらに、発信するものが蓄積され歴史と化するような文化伝承装置にすら進化することが予想されます。半年間の進展がまさに未来に向けたベクトルだからです。

垣間見える商店街の未来像

たかがホームページ、されどホームページ。過小評価は不要です。今見

えているベクトル(矢印)の先に商店街の未来像が垣間見えてきます。いくつか予見できること……。

●商店街の核となるような自分たちの固有の価値が見えてくる。
●お客さんとのコミュニケーションが密になる。
●遠く隔たった人々とのコミュニケーションが始まる。

●近い将来、店主それぞれが思い思いの情報発信の楽しみを発見する。

時代が変わり、商店街のパラダイムも変わりました。中心商店街の活性化が全国的な課題となつていますが、解決策を導けないケースが殆どです。しかし、問題の本質が見えていれば新時代のパラダイムにシフトすることができないわけはありません。

学生が抱いた「怖い」という感覚の先に見えるもの

今年、長野大学と松尾町商店街との連携を試みました。私が担当する1年生ゼミの学生が松尾町商店街の課題発見に取り組みました。学生たちにとって、松尾町とは何の接点もなく、興味の持ちようがないのも無理ありません。それでも学生はいくつかの課題を指摘しました。その一つは、商店街の店の前に案内が何もないので、店に入るのが怖い、というものでした。確かに学生でなくても、見知らぬ店に入るのには誰でも勇気がいります。学生たちは、それぞれの店の前にわかりやすい案内を出すことや商

松尾町の未来が見える『真田坂web』

前川道博◎長野大学企業情報学部准教授

店街のパンフレットを駅などの各所において広報することを提案しました。「怖い」という感覚は、商店街の方にとって気づきにくいことかもしれません。スパーやコンビニでの買い物は日常化した現代では、商店街に赴くことは、限りなく億劫で勇気のいることです。学生たちがいみじくも指摘したように、今の商店街にとって必要なことは、お店それぞれが自ら情報を発信することです。

顔が見える商店街の情報発信

商店街の本質は、店主と客がコミュニケーションするコミュニケーションだということです。店の商売は古来からコミュニケーションの手段だったのかもしれない。店主の人物や客に対する提案能力(セールス)が商店街の財産です。まさにそこに地域の文化・知性が凝集しています。これを全面に出せると商店街全体の魅力がさらに高まります。

ネットを活用する方法はいろいろ考えられます。私だったら店主お一人お一人のお話を聞いてみたい。なぜその商売をしているのか。いつから始めたのか。昔と今は商売がどう変わったか。松尾町はどう変わったか。どんな抱負を持っているか。松尾町をどれくらい愛しているか。松尾町のよいところは何か。などなど。商売のうん蓄や商店街への思いなどはぜひたくさんぐらいに時間をかけてでも聞いてみたいところですよ。

ウェブに情報を載せるのに原稿を執筆したりするのは大変だし、作文

を読むことを受け手が望んでいるわけでもないでしょう。ご本人からお話を直接お聞きしてビデオで配信するのがベストです。ネットに店主がビデオで出演すると、「顔が見える情報提供」になります。こういう全員参加型の情報発信がネットを使うメリットになつていきます。ネットで店主と顔なじみ?になると「怖さ」は逆に「出合いの楽しみ」に転じます。

店主の方々、ご本人が本当はいろいろと語りたことをお持ちなのではないでしょうか? それぞれの方がそれぞれ語りたことを語ることは楽しいことで、それが商店街の中の新たな相互理解になつたり、近隣遠地の人々とネットを介してつながる可能性を開いていくとしたら、やってみない手はありません。これらを束ねると、その全体はやがては「松尾町商店街史」のようなものになっていきます。文化伝承がどんどん補強されていきます。

まだまだ湧き出る活性化のアイデア

パラダイムシフトが起こりそうな予感がすれば、実際にそれは起こります。店主のお話のビデオ配信はほんの一つのアイデアです。「まだまだアイデア」が湧き出てくるはずですよ。地域SNS「おらほねっと」をご活用いただく手もあります。私からはあまりあれもこれもとは言わず、ここでは考える楽しみ之余白を「未来の松尾町」のために残しておくことにしましょう!



学生に商店経営の話をする玉井フルーツ社長町田和幸さん。店主のお話は「顔が見える商店街」につながる。

真田坂webホームページ
<http://sanadazaka.jp/>

地域SNS「おらほねっと」
<http://orahonet.jp/>



松尾町商店街公式ホームページ「真田坂web」では、各店の商品をネットで注文できる宅配サービスをはじめ、各店案内、イベント情報、交通機関の時刻表リンク、休日当番医情報リンク等、皆様の暮らしに役立つ様々な情報を発信しています。

そんな中で真田坂webのメインコンテンツになりつつあるのが「ウェブクッキングサロン」のコーナーです。ウェブクッキングサロンでは、簡単に出来ておいしい料理のレシピを毎月紹介しています。

今年の3月からスタートしたこのコーナーは8月で6回を数え、紹介した料理の数は全部で13品になりました。

ウェブクッキングサロンではただ料理のレシピを紹介するだけでなく、松尾町商店会役員が自ら調理し、その様子を写真や動画で紹介しています。上手にでき

ても失敗しても、ありのままにお伝えする事で、料理のポイントが判ります。

料理に使う食材をはじめ、お酒、器、撮影小道具まで、すべて真田坂(松尾町)のお店で調達しています。

動画をたくさん掲載していますので、店主の人柄等も見取れるのではないのでしょうか?「このコーナーを見れば真田坂がわかる」と言っても過言ではありません。

真田坂web ウェブクッキングサロン <http://sanadazaka.jp/recipe/index.html>



■ レシピの一例

ニョッキのアラビアータ

● 材料 (4~5人分)

【ニョッキ】
じゃがいも :1kg
薄力粉 :500g
卵 :1個
塩 :小さじ1杯

【ソース】
完熟トマト :10個
ししとう :適量
ニンニク :3かけ
砂糖 :少々

● 作り方

【ニョッキ】

1. 皮をむいて適当な大きさに切ったジャガイモをゆで、裏ごしをする。
2. 裏ごししたジャガイモと薄力粉、卵、塩を混ぜ、丸くして20~30分寝かせる。水はなるべく使わず、練らないでまとめる。
3. 打ち粉をして平らに伸ばして等分に切り、千歳飴のように伸ばし、2cm位に切る。
4. (3)を沸騰したたっぷりの湯に入れ、浮いてきたら氷水に入れる。

【ソース】

1. トマトを湯むきして小さく切る。
2. ニンニクとししとうをスライス。
3. たっぷりのオリーブオイルでニンニクを炒める。中火でこんがりするまで。
4. (3)に(1)のトマトを入れ、灰汁を取りながらよく煮る。
5. スライスしたししとうをオリーブオイルで炒めてから(4)に入れる
6. 隠し味に砂糖を少々加える。



中国からの留学生蘭さんにも参加していただきました。



(上)春の香りのマリネ。
(右、上から)うな丼とニョッキのアラビアータ、冷製パスタ、春野菜まるごとスープ。
作ったあとは、もちろんみんなで楽しく美味しくいただきます。



真田坂グッズ

読者の皆さん♪こういったマイナーな地域限定商品嫌いじゃないですよね。私は、結構好きなんです。真田坂オリジナルグッズは、今年でもう6年目になりました。そこそこ好評で毎年少しずつ商品が増えています。ここに掲載している商品は、現在販売中のものです。期間限定、数量限定商品は随時真田坂WEBに載せていきますのでご覧くださいね。

● 吟醸生貯蔵酒「地酒真田坂」



真田坂オリジナルロングセラー商品。

● タオル



上質なタオル生地で作った粋な一品。私が大好きお気に入り♪



● 真田幸村公の鎧

全国探してもここにしかない「特注品」。かっこいい!まさに武者震いだ~

● Tシャツ「職人魂」



真田坂商人たちの魂の叫び (^o^)/

● みすず飴



真田坂の名店「飯島商店」のオリジナル商品。パッケージは真田坂オリジナル。名前も真田飴にしたら怒られるかな? \ (^o^) /

● 巨峰レーズン



無添加・無着色、長野県産巨峰のドライフルーツ。贅沢な一品です。

● 真田坂ブレッド



天然酵母と全粒粉くるみパン。「うまい!」食べるほどに広がるクルミの風味。真田坂ブレッドの天然酵母は最高だね♪

● 筆



伝統工芸品の熊野筆で有名な広島県熊野町の毛筆メーカーに特注した、イタチの毛を使った仮名用細筆。朱色が「真田坂」。黒は「真田幸村」。

● 暖簾



もちろん真田坂口ゴ無しもお作りいたします。

本稿を書くにあたり、さて困った何を書いたら良いかと思案しつつ夕暮れの松尾町商店街を散策してみた。普段私は街を、自分が生活している環境の風景、としか見ていない。改めて街並みを歩いてみて何か新しい発見や感動は無いものかと凝視してみるが、そこにあるのはいつも通りの街の風景であった。歩道には、数人で楽しそうに談笑する学校帰りの学生達や家路を急いでいるサラリーマン達。かなりの活気であるが、大半にとつて街は素通りするだけの目的地への通過点に過ぎないのである。彼らもまた、街を自分達の生活の風景としか見ていないのかなと思ひ苦笑した。思えば昨今、デイトレーダーなどの跋扈に代表されるように「効率良く」「短時間で」「経済的に」があたかも正義のようにもはやされる時代である。私達もまた新幹線や高速道路の恩恵に与っている。目的地への通過点が風景以外の意味を成さなくなってきたのは、何も商店街に限った話ではない。

ふと、自分が子供の頃に学校帰りの買い食いがあるものすごく贅沢でスリリングだったことを思い出した。童心に返ってみれば、目的地への通過点が風景以外の意味を成さないこと、それは品行方正だがとても貧しいことのように思えてしまう。目まぐるしい現代社会にあつて私たちは心の余裕を無くしてはいまいか。たまには寄り道して「効率悪く」「長時間で」「非経済的に」心の贅沢して良いのではないかと、と自分に言い聞かせた。

●松尾町 イベント情報

《松尾町アートギャラリー》

10月・11月の開催予定です。どうぞご覧下さい。

10月2日(火)~10月8日(日)

「青木繁雄 絵画展」-あおデザイン青木繁雄-

10月11日(木)~15日(月)

「つるし雛飾り」

10月18日~10月21日

「清水悦男 絵画展」

10月26日~10月31日

「春原いずみ 人形展」

11月15日~11月17日

「第4回真田坂職人フェア」

11月23日~11月26日

「大角和美 絵画展」

アートギャラリーは皆様にご利用戴くギャラリースペースです。

《幻灯舎》

10月6日(土)~10月21日(日)

「小林いと子 人形展」

一上田の昭和を偲ぶ人形たちとふるさとの原風景一

遠ざかりつつある昭和の思い出。穏やかで暖かな暮らし。今も残るふるさとの風景を、人形たちと、パネル写真で巡ります。写真撮影は数々の映画ロケにも使われている場所を中心に、行いました。上田で多くの映画が撮影されているということは、それだけに響く風景、暮らしがあるからなのです。そんな想いを人形達と共に訪ねましょう。



幻灯舎講座 Vol.IV

第一回 10月9日(火) PM6時から

「おらは、こんだらもんをおいだれに観てほしーだよ!」

是非観て欲しいという思い入れも含めた名作を、熱く語ろうという講座です。

○企画中

幻灯舎ロケ地ツアー

上田及び周辺で撮影された作品のロケ現場を1日ゆっくり訪ねるツアーです。

お問い合わせ先 幻灯舎 0268-21-7280



共通駐車券進呈!!

編集後記

「真田坂 第11号」をお届けいたします。第10号発刊から間が空いてしまいました。その間、ペーパーのあり方について色々検討を繰り返し、これまでとは少し音色が変わったものになりました。また、紙面でご紹介致しましたようにフリーペーパー以外に「真田坂Web」というインターネットのサイトも開設しました。いち商店街が情報発信のツールを持つ事は大きな力となりますが、その力をどのように使えばよいのか。それは正に自分達がどう在ろうとするかを自らに問いかける事でもあります。

私たちを取り巻く状況は、決して穏やかなものではありませんが、臆せず元気に時代に立ち向かって行きたいと考えています。そんな松尾町の姿が皆様に伝わり、皆様が街に足を運んで下されば幸いです。お読み下さり、ありがとうございます。(編集委員一同)

真田坂 第11号

発行日：2007年9月28日

ご意見、ご感想等お寄せ下さい。

FAX 0268-21-1100

発行責任者：

長野県上田市松尾町商店街振興組合
理事長：矢島嘉豊
フリーペーパー担当理事：志摩充彦

第2中央パーキングのご案内

昨年、「真田坂フリーペーパー」の銘店探訪記事として、上田情報ビジネス専門学校について掲載しましたが、第2中央パーキングの入り口が大変不明確であったため、松尾町商店街振興組合と佐藤校長先生との話し合いにより、先生自ら快く駐車場入り口の変更工事をして頂きました。これにより、松尾町真田坂よりスムーズに入ることが出来るようになりました。どうぞ松尾町商店街契約駐車場の一つとしてご利用下さい。



最高の信頼を
めざして。

時代のニーズにこたえる。
あなたのニーズにこたえる。
私たちは、お客さまに
最も信頼していただける
銀行をめざして、
さらに新しい価値を
ご提案してまいります。

 **三井住友銀行**

SMFG 三井住友フィナンシャルグループ
SUMITOMO MITSUI FINANCIAL GROUP